

主催：名古屋工業大学大学院 産業戦略工学専攻
共催：名古屋市立大学大学院 経済学研究科
経営トップセミナー アジア新興経済のフロンティア
～アジア産業経済の新展開と展望～

日時：12月11日(水) 13:00 (受付開始：12:40)

場所：名古屋工業大学2号館1階0211教室

開会挨拶：13:00

講演1：13:10～14:10

「アジア最後のフロンティア ミャンマーの変化とビジネス展開」

一般社団法人 持続可能なモノづくり・人づくり支援協会 (ESD21)
九州工業大学大学院 情報工学研究院 客員教授 黒岩 恵 氏

2007年末に一本の電話がミャンマーとの付き合いの始まりだった。その原風景が残っていた国が、一昨年より劇的に変わった。名鉄の名前を付けた中古バスやパブリカも走る車博物館のヤンゴンの街が、車も新しく渋滞も当たり前、ホテル代は3倍、そして貸ビルは東京都心やマンハッタンと同程度という。日本企業の進出は2年前に50社から今やその3倍。サービス業や縫製業、ODAやインフラ投資が始まり、徐々に製造業、自動車産業の進出が検討されている。ESD21「ミャンマー調査研究会」では、日緬産業振興協力のため同国に関心ある企業間の情報共有の場を提供。本講演ではミャンマーの魅力と急速な変化、日本企業のビジネス展開の報告、併せて研究会の活動概要を紹介する。

講演2：14:20～15:20

「インドIT産業の高付加価値化とマネジメントの新展開」

名古屋工業大学大学院 工学研究科 准教授 徳丸 宣穂 氏

貧困・格差や政治腐敗をはじめとする深刻な矛盾を抱えつつも、高度な知識人材が豊富に存在することがインドの産業発展の強みとされてきた。しかし、現在のインドはもはや、安価な知識人材に頼った、単なる低コスト知識労働拠点ではなくなりつつある。むしろ深層に目をやると、産業が高付加価値化するにつれて、強い組織力を生み出すマネジメントの萌芽が現れつつあることに気付く。この事実は、先進国がまさに知識集約型産業に雇用維持を期待しているだけに、重大な意味を持っているように思われる。そこで本講演では、インドIT産業の現地調査を報告するとともに、インドをはじめとした新興国での知識集約型産業の着実な発展が、先進国・世界経済に対していかなる意味を持つのかについて考えてみたい。

講演3：15:30～16:30

「東アジアの経済統合 ～ASEANとRCEPの視点から～」

名古屋市立大学大学院 経済学研究科 准教授 板倉 健 氏

東南アジア諸国連合(ASEAN)に、日中韓、そしてインド、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、ロシアをも含む、東アジアを中心にした広域での経済統合を模索する動きが活発化している。今回の報告では、RCEPに向けた東アジアでの経済統合の状況分析を、ASEANを中心に考察する。国内では東日本大震災の影響が尾を引き、為替相場も円高が続いている。欧州の債務危機や米国景気の2番

底懸念問題も取沙汰され、経営を取巻く環境は予断を許さない状況が続いている。本講演ではそのような状況を踏まえ、日本経済の現状と見通しをお話したい。

閉会挨拶

参加費：無料

参加申し込み：

参加を希望される方は 12月6日(金)までに baba.keiko@nitech.ac.jp 馬場慶子宛 ご氏名とご所属（会社名、大学名）をご連絡ください。

問い合わせ先：

名古屋工業大学大学院 産業戦略工学専攻 仁科 健 nishina@nitech.ac.jp



名古屋工業大学へのアクセス



学内マップ (会場：2号館1階)